

地域のシンボルとなる開かれた教会建築



聖堂との関係性を重視し、安全性に配慮した配置・動線計画

歴史を受け継ぎ未来へつなぐ教会建築

■これまでの活動をさらに促す交流広場

聖書読書会、語学教室、青年姉妹会、教会学校など、郡山教会にはこれまで育まれてきた**沢山の活動の歴史**があります。活動がより活発になるように、聖堂と集会室をつなげ内と外を一体的に使用できるスペースとして**交流広場**を整備します。人と人のつながりを築き、未来へ続くにぎわいの景色を創出します。

■ギャラリースペース&図書コーナー

これまでの**歴史を学び感じる**ことができるように、寄贈されたB.M.V.MIYAKO像や司祭様の肖像をギャラリースペースに展示します。集会室にも図書コーナーを設け、これまでと同様に図書に親しむことができる集会施設とします。

機能性が高く使い勝手の良い動線計画

■聖堂とつながる新司祭館・信徒館

東側に建物を寄せ**聖堂へのアクセスを改善**し、より使いやすい配置計画とします。

■安全な歩車分離の動線計画

車両は幹線道路を避け、車通りの少ない北側からのアプローチとします。幹線道路の渋滞を避け、**歩行者のアプローチと重複しない**計画とします。

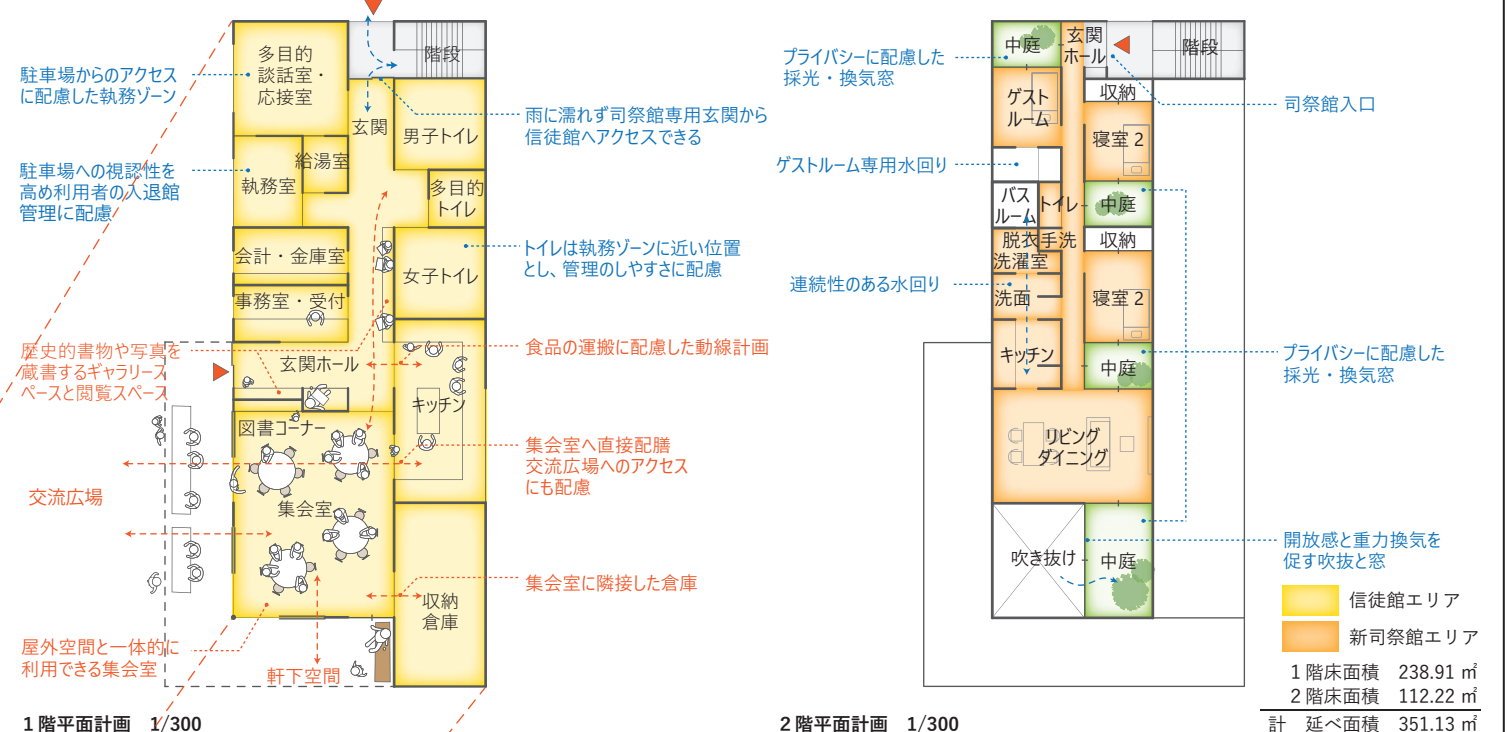
■機能性の高い集会室

イベントや用途に応じて簡単にスペースを分けることが可能な平面計画とします。移動型の間仕切り壁や、家具の配置で空間を仕切る**フレキシブルな提案**を検討します。また、多人数が参加するイベント時での使い勝手を考慮して、収納倉庫とキッチンを集会所に近接して設けます。テーブルや椅子の出し入れ、食事の配膳が楽になる機能性の高い動線計画とします。



配置計画 1/400

機能的でプライバシーへ配慮した平面計画



1階平面計画 1/300

2階平面計画 1/300

信徒館エリア	238.91 m <sup>2</sup>
新司祭館エリア	112.22 m <sup>2</sup>
計 延べ面積	351.13 m <sup>2</sup>

長く地域に愛される持続可能な教会建築

多様性を受け入れ地域に開かれた建築

■人をつなぐ集会室、交流広場

礼拝後は交流広場と一体的に広がる集会室で**信徒間の交流**を促し、イースターやクリスマスには、交流広場も使ったイベントなど、多様性を受け入れ**地域の人にも開かれた場所**となるよう計画します。

■ユニバーサルデザイン・バリアフリー化

バリアフリー・ユニバーサルデザインの考えを徹底し、段差の解消、手摺、引き戸等を採用し誰もが使いやすく、綺麗で清潔な建物として整備し**多様性に配慮した計画**とします。

光と風を取り入れるパッシブデザイン

■自然環境を利用した計画

高気密・高断熱仕様の建物とした上で主要な居室は**南向き**とし、太陽の光や風を取り入れた心地よい環境を目指します。

■中庭の緑を親しむ居住環境

居住スペースである2階には南向きの中庭を設け緑が感じられ、心から安らぐことができるような計画とします。また、司祭館と信徒館のエリア分けを明確にし、司祭の**プライバシーに配慮**した計画とします。

末永く使い続けられる持続可能な建築

■メンテナンス性とコストに優れた計画

シンプルな形状で、日常点検・更新などの**維持管理が容易**な建物とする共に、性能を高めながらコストを抑えた計画とします。

■耐久性を高め地域に永く寄り添う教会

通常の施設の**2倍以上の断熱性**を確保し、構造は木造住宅における耐震等級3以上とすることで安全性を確保、**大地震時にも耐える**構造計画とし、地域により永く寄り添い、拠り所となる教会として計画します。



鳥瞰パース



2階司祭館 中庭から光が差し込むリビングイメージ



集会室イメージ

概算予算書 (千円)